

震災30年特別企画  
兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム

挨拶

竹田 統  
一般財団法人住吉学園 理事長

工藤 健一  
神戸市東灘区長

パネリスト ※登壇者は都合により変更になる場合がございます。

小菅 康生  
神戸市教育委員会事務局学校教育部部长

松本 宣子  
住吉歴史資料館 事業推進委員

内田 雅夫  
住吉歴史資料館 事業推進委員・学芸員

馬場 美智子  
兵庫県立大学大学院 減災復興研究科教授

討論者

和田 真理子  
兵庫県立大学大学院 社会科学研究所准教授

パネルディスカッション参加

甲南女子大学文学部  
津田ゼミナール

2024年

12月14日 [土]

御影公会堂 白鶴ホール

14:00-17:00 (予定) (開場 13:30)

会場 150名 / オンライン 300名 参加無料

# BE KOBE 震災30年を 未来につなぐ

—持続可能社会におけるレジリエンス—

# 地域社会

# 震災記憶の継承と

主催 兵庫県立大学政策科学研究所  
共催 東灘区役所、関西学院大学産業研究所、住吉歴史資料館  
後援 一般財団法人住吉学園、甲南女子大学

お問い合わせ：兵庫県立大学政策科学研究所 〒651-2197 神戸市西区学園西町8-2-1 ☎(078)794-5302 FAX (078)794-6218 ✉ ipshyogo@gmail.com

Designed by Misaki.T



## 開催趣旨

神戸市東灘区は、阪神淡路大震災の被害が最も甚大であり、高速道路高架の倒壊が記憶に残ります。震災発生当初は、行政としての組織的活動に限界があり、危機的な状況は地域住民との連携を通じて克服されていきました。ところが阪神大震災後には人口流動化が生じて、地域住民の大幅な入れ替わりが生じました。そのため旧住民と新住民の関係構築を進め、災害対策にも機能する新しい地域住民の結びつきが必要となっています。

震災から 30 年が経過し、震災体験のない世代や外国人住民の増加が進む一方で、被災体験者から生の声を聞く機会も減りつつあります。東日本大震災や能登半島地震が象徴するように、日本では災害の偶発的発生は避けられません。震災 30 年を好機として、震災記憶の継承と地域住民の結びつきについて、皆様と一緒に考えたいと思います。

## 事前登録

登録フォームより登録（任意）

※ リマインドメールを差し上げます。

※ 申込締切：2024 年 12 月 13 日（金）



登録は  
こちら

<https://forms.gle/Gb1zJm9jfSzdo34Z8>

## アクセス

御影公会堂 白鶴ホール

〒658-0045 神戸市東灘区御影石町 4 丁目 4 番 1 号

### ■ 阪神電鉄

石屋川駅より北へ徒歩 5 分

御影駅より徒歩 10 分（国道 2 号線と石屋川の東北角）

御影駅より市バス 16・36 系統「御影公会堂前」下車

### ■ 阪急神戸線

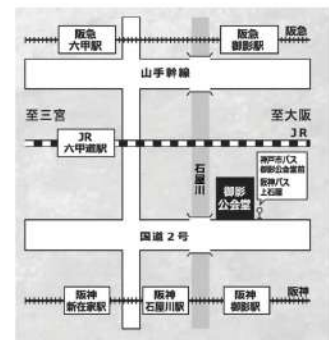
六甲駅より市バス 16・36 系統「御影公会堂前」下車

### ■ JR 神戸線

住吉駅より阪神バス「上石屋」下車

六甲道駅より徒歩 15 分

六甲道駅より市バス 16・36 系統「御影公会堂前」下車



※ 駐車スペースを準備できませんので、お車でのお越しはご遠慮ください。

お問い合わせ：〒651-2197 神戸市西区学園西町 8-2-1 兵庫県立大学政策科学研究所

☎ (078) 794-5302 FAX (078) 794-6218 ✉ [ipshyogo@gmail.com](mailto:ipshyogo@gmail.com)



2024年度 第2回 兵庫県立大学政策科学研究所シンポジウム

震災30年特別企画

# 震災記憶の継承と地域社会

ー持続可能社会におけるレジリエンスー

# BE KOBE

# 震災30年を

# 未来につなぐ

主催：兵庫県立大学政策科学研究所

共催：東灘区 関西学院大学産業研究所 住吉歴史資料館

後援：一般財団法人住吉学園 甲南女子大学

日時：2024年12月14日(土) 14:00~17:00 (予定)

会場：御影公会堂 (13:30開場)



# 震災記憶の継承と地域社会

## 14：00 開会の言葉

山口 隆之 関西学院大学産業研究所 所長

## 14：05 後援者・共催者の代表挨拶

竹田 統 一般財団法人住吉学園 理事長

工藤 健一 神戸市東灘区長

## 14：10 趣旨説明・登壇者紹介

### 第Ⅰ部 基調講演

## 14：15 「持続可能社会におけるレジリエンス ～震災の教訓の継承と地域社会～」

中村 稔 兵庫県立大学客員教授・同政策科学研究所特定研究員

～休憩～

### 第Ⅱ部 講演

## 14：50 「0からの出発」

小菅 康生 神戸市教育委員会事務局学校教育部 部長

## 15：15 「私の震災記憶」

松本 宣子 住吉歴史資料館 事業推進委員

## 15：40 「近年の防災行政と地域社会－震災から30年経過した地域コミュニティの今－」

馬場 美智子 兵庫県立大学大学院減災復興科学研究科教授

～休憩～

### 第Ⅲ部 パネルディスカッション

## 16：10 「震災記憶の継承と地域社会」

討論者：和田 真理子 兵庫県立大学大学院社会科学研究所准教授

特別パネリスト：平井美紀 中上朱莉 邱如瑩 甲南女子大学文学部津田ゼミナール

## 16：55 閉会の言葉

田中 隆 兵庫県立大学政策科学研究所 所長

## 17：00 終了（予定）

進行の関係上、実際の進行が表示時刻より前後することがあります。ご理解の程、よろしくご願ひ申し上げます。

## 講演概要（登壇順）

### 中村 稔 「持続可能社会におけるレジリエンス～震災の教訓の継承と地域社会～」

災害大国の日本において防災・減災を通じた強靱性（レジリエンス）を維持・向上し持続可能な社会としていくための考え方や具体的方策についての問題提起を行う。特に、平時からの備えと災害発生時の対応における地域の紐帯の重要性とその強化に向けた課題を指摘しつつ、その解決への道筋を考察する。さらに、危機管理の要諦と過去の教訓に学ぶことの意義についても包括的に論じる。

### 小菅 康生 「0からの出発」

神戸市立住吉中学校在籍時に阪神・淡路大震災が発生。震災直後の学校・校区・生徒の様子とともに、子供たちの心のケア、避難所の運営をはじめとする教職員の活動などについて振り返る。今回会場に展示している震災当時の様子を描いた作品は、地震発生から約2か月後に子供たちの心のケアとして教科指導で取り組んだもの。制作中の子供たちの様子やその後、作品が果たした役割などについても紹介する。

### 松本 宣子 「私の震災記憶」

現在、住吉歴史資料館では『阪神・淡路大震災資料集 住吉の記憶』の編纂が続けられています。30年前に起こった阪神淡路大震災は、それまで「神戸には地震は起きない」と信じていた私にとって、晴天の霹靂（へきれき）であり、何の備えもなく、厳しい状況に追い込まれました。周りの方々と家族と協力し合って、その場を乗り越え、もとの生活を取り戻すことができました。資料集第1巻にも収録された、その時の体験をお話します。

### 馬場 美智子 「近年の防災行政と地域社会－震災から30年経過した地域コミュニティの今－」

気候変動による自然災害リスクが高まり、減災・防災対策のより一層の推進が求められるが、行政の役割には限界がある。災害発生時の迅速かつ効果的な対応のためには、地域住民の協力や地域特性を活かした対策が重要である。他方で、価値観が多様化し、地域のつながりも希薄となっけていきていることから、現代社会に合った新たな共助の仕組みが求められている。

### 和田 真理子 「震災記憶の継承と地域社会」

持続可能な地域社会には、多世代・新旧住民や、様々な組織がつながることが大切です。絆は強いほうが良いと思われがちですが、地域のレジリエンスや創造性の観点からは、実は「弱い紐帯」が重要であるといわれています。強すぎる絆は硬直性や閉鎖性をもたらすことがあるからです。多様な住民が幅広く参加しやすい「弱い紐帯」が生まれる場で、震災記憶が共有され、継承が進む。そんなまちづくりについて考えてみたいと思います。

## 甲南女子大学文学部津田ゼミナール活動紹介

阪神・淡路大震災30年番組制作プロジェクトとして、現在まで20組50名以上の方に取材を重ねました。また、石川県珠洲市へ赴き、震災のリアルを経験しました。学生9人が「女性」「障害をお持ちの方」「教育や防災グッズ」に焦点を置いて活動し、学んだことを未来へ繋げていきます。震災を経験していない私たちが、繋ぎ伝えたいことを、番組や報告会、小学生に授業をして、皆さんに届けています。

## 登壇者略歴

### <基調講演者>

中村 稔 (なかむら みのる)

広島県出身。1986年東京大学法学部卒、通産省入省。在ポーランド大使館一等書記官、経産省大臣官房参事官、中東アフリカ室長、石油流通課長、兵庫県産業労働部長、NUMO専務理事等を経て退官。現在、NAIST客員教授、NPO法人理事長、会社社長などを務め、著書に「何が地方を起こすのか」等。月刊誌「たる」にエッセイを連載中。

### <講演者>

小菅 康生 (こすが やすお)

大阪府出身。1987年大阪芸術大学芸術学部美術科卒業。1992年4月、神戸市立住吉中学校教諭として着任。以後、飛松中学校教諭、丸山中学校主幹教諭、教頭、神戸市教育委員会事務局指導部指導課指導主事・係長、神戸市立魚崎中学校校長、神戸市教育委員会事務局学校教育部児童生徒課担当課長を歴任。現在、神戸市教育委員会事務局学校教育部部長。歴任校では、震災学習、防災教育、次世代につながる防災教育に取り組んできた。

松本 宣子 (まつもと のりこ)

1948年広島県呉市生まれ。1971年大阪大学文学部卒業。1971～1977年の伊藤忠電子計算(株)を経て、1980～2004年にフリーランスのSEとして数社に勤務。その間、青少協渦森支部支部長、青少協住吉連合支部会計を務める。現在、住吉歴史資料館事業推進委員、東灘少年補導員、青少協渦森支部協力員。

馬場 美智子 (ばんば みちこ)

京都市出身。防災科学技術研究所地震防災フロンティア研究センター研究員、国土交通省国土交通政策研究所等を経て、2011年兵庫県立大学防災教育センター准教授に着任。現在、同大学院減災復興政策研究科教授。専門は土木計画。研究内容は、減災まちづくり、災害リスクと都市計画、復興公営団地におけるコミュニティ形成等。

### <討論者>

和田 真理子 (わだ まりこ)

東京都出身。1995年東京大学総合文化研究科修了。同年神戸商科大学(現・兵庫県立大学)商経学部に着任、2004年より兵庫県立大学准教授。加西市総合政策審議会会長、神戸市総合基本計画審議会委員などを務める。専門は経済地理学・都市地理学。研究分野は、地域の特性に応じたコミュニティ経済の創出・再生とまちづくり等。

### <特別パネリスト>

甲南女子大学文学部津田ゼミナール

平井 美紀 (ひらい みき) 中上 朱莉 (なかうえ あかり) 邱 如瑩(キュウ ジュイン)

### <司会>

安尾 愛梨 (やすお あいり)

兵庫県出身。甲南女子大学文学部日本語日本文化学科在籍。司会・リポーター・タレント。





兵庫県立大学客員教授  
政策科学研究所特定研究員  
中村 稔





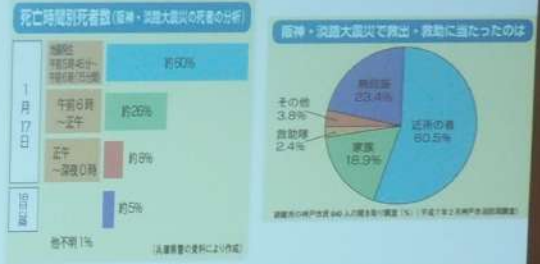
# 1. 阪神淡路大震災での教訓

(1) 建物の耐震化・家具等の転倒防止の重要性  
 →死者の80%以上が建物の倒壊等が原因  
 (その他、焼死等が約13%)  
 負傷者の半数近くが家具の転倒が原因  
 (その他、落下物による負傷が約25%、  
 退避時の転倒が約9%)



(2) 速やかな救助の重要性  
 →死者の約60%が発災後15分間で、  
 約8.6%が約6時間で死亡

(3) 自主防災活動の重要性  
 →被害者の約80%が近所や家族の  
 方々により救助

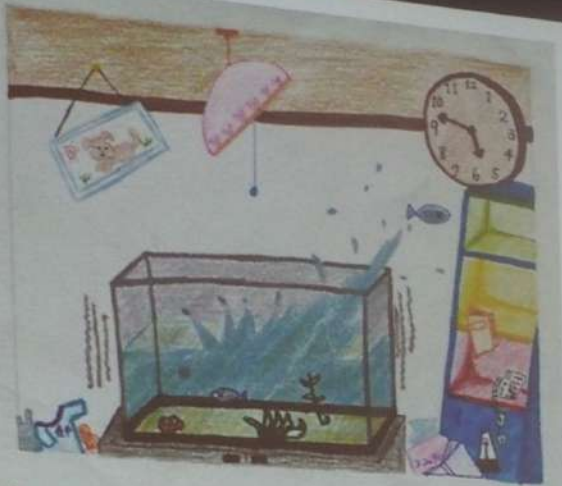




神戸市教育委員会事務局  
学校教育部 部長

小菅 康生





地震のあったその日は小学校に避難した。  
 次の日の明け方誰か快、「津波がくる」とさおおだしたが、ラジオで液化ガスがもれたと言ったのでにげだした。  
 その日、飾がりの母は爆発したらたいへんだからと電車の通ってる西宮北口まで歩いて埼玉のおばあちゃん家に帰ろうと言った。西宮北口までの時間も歩いて、それから電車を乗り継ぎやうとておばあちゃん家に着いたら、とても危ないでした。

地震のあったその日は小学校に避難した。  
 次の日の明け方誰か快、「津波がくる」とさおおだしたが、ラジオで液化ガスがもれたと言ったのでにげだした。  
 その日、飾がりの母は爆発したらたいへんだからと電車の通ってる西宮北口まで歩いて埼玉のおばあちゃん家に帰ろうと言った。西宮北口までの時間も歩いて、それから電車を乗り継ぎやうとておばあちゃん家に着いたら、とても危ないでした。





地震当日

ライフライン

水道

ガス

電気

松本宣子







松本宣子

住吉歴史資料館事業推進委員





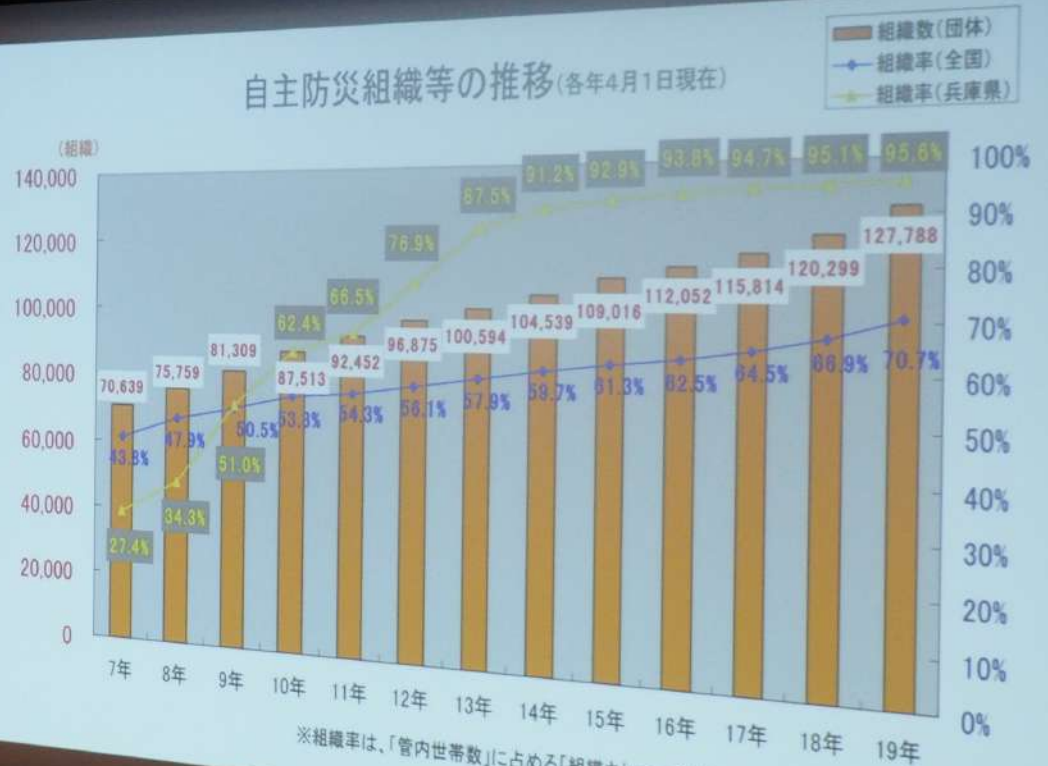
馬場美智子

兵庫県立大学大学院  
減災復興政策研究科 教授





# 自主防災組織等の推移 (各年4月1日現在)



※組織率は、「管内世帯数」に占める「組織されている地域の世帯数」の割合(%)である。  
 (消防庁:「地方防災行政の現況」による)





和田真理子

兵庫県立大学大学院  
社会科学研究科 准教授





BE KOBE  
震災30年を  
未来につなぐ

# 震災記憶の継承と地域社会

—持続可能社会におけるレジリエンス—

和  
田  
真  
理  
子

和  
田  
真  
理  
子  
神戸大学  
社会科学研究科  
准教授

小  
菅  
康  
生

小  
菅  
康  
生  
神戸大学  
社会科学研究科  
准教授

松  
本  
宣  
子

松  
本  
宣  
子  
神戸大学  
社会科学研究科  
准教授

馬  
場  
美  
智  
子

馬  
場  
美  
智  
子  
神戸大学  
社会科学研究科  
准教授

中  
上  
朱  
莉  
美  
紀

中  
上  
朱  
莉  
美  
紀

中  
上  
朱  
莉  
美  
紀

如  
壁  
如  
壁



兵庫県立大学大学院  
社会科学研究科 准教授



神戸市教育委員会事務局  
学校教育部署長

小菅 康生



住吉歴史資料館 事業推進委員

松本 宣子

馬場 美智子





住吉歴史資料館 事業推進委員  
**松本 宣子**



兵庫県立大学大学院  
減災復興政策研究科 教授  
**馬場 美智子**







甲南女子大学文学部  
津田ゼミナール

平井 美紀  
中上 朱莉  
邱 如瑩





『常二備へ』  
[Vertical text describing the exhibition or project]







会  
スー

